

I 学校経営目標

(1) 教育活動の充実

- ① 他者や資料、自己との対話的な学びのある授業づくりを通して、自分の考えを形成するとともに自信をもってその考えを表現できる生徒を育成する。

⇒目指す生徒像:自立した学習者の育成,研究テーマ:生徒に学びを委ねる授業づくり~対話的な学びを基盤として~

- ② 目標をもち、その実現に向けて粘り強く取り組む生徒を育成する。
③ 道徳教育・人権教育をはじめとする心の教育を一層充実し、自他の存在を尊重し合う生徒を育成する。
④ 自らの健康や安全な生活を意識し、自律的に行動できる生徒を育成する。

<達成基準>

- ・①:学習意識調査(別紙資料1)で、肯定的回答率が85%以上である。
- ・②③:学校アンケート(別紙資料2a・2b・2c)で、肯定的回答率が70%以上である。

(2) 教職員の資質向上

- ⑤ 県が示す育成指標に基づいた研修計画を立て、個々の資質能力の向上を目指す。
⑥ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、一人一台端末の効果的な活用や探究的な学びを取り入れた授業実践に努める。
⑦ 一人年一回以上の公開研究授業と全体での研究協議を通して、特に若手教員の授業実践力向上を図る。

<達成基準>

- ・⑥:授業アンケート(別紙資料3)で、肯定的回答率が70%以上である。

(3) 安全で安心な学校づくり

- ⑧ 非行防止、薬物乱用防止、交通事故防止等の安全指導や、火災・地震・土砂災害・不審者等に対する緊急避難の訓練を引き続き充実させる。

<達成基準>

- ・⑧ 避難訓練や救急法講習会、薬物乱用防止教室等を実施した際の生徒の振り返りの中に、自身の健康や安全に対する意識の高揚が見てとれる。

(4) 地域とともにある学校づくり

- ⑨ 芳井地区学校運営協議会の取り組みを活性化し、これまで以上に芳井小学校や地域との連携・協働を進めることで教育の質を向上させるとともに、教職員の働き方改革を進める。
⑩ 学校便りや学年通信、HP等により積極的に情報を発信することで学校の様子を多くの地域住民に伝え、地域総合力で子供たちを育てる意識の醸成を図る。

<達成基準>

- ・⑨:学校運営協議会アンケート(別紙資料4)で肯定的回答率が70%以上である。
- ・⑩:学校アンケートで肯定的回答率が70%以上である。

2 自己評価

(1) 教育活動の充実に関して [A・B・C]

- ① 他者や資料、自己との対話的な学びのある授業づくりを通して、自分の考えを形成するとともに自信をもってその考えを表現できる生徒を育成する。

学習意識調査の結果

- ・「話し合い活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができている。」の問いに、91%が肯定的な回答。
- ・「授業では、自分なりの考えをもって話し合い活動に参加している。」の問いに、84%が肯定的な回答。
- ・「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表できている。」の問いに、71%が肯定的な回答。

- ② 目標をもち、その実現に向けて粘り強く取り組む生徒を育成する。

学校アンケートの結果

- ・【生徒】「あなたは目標をもって学校生活を送っている。」の問いに、84%が肯定的な回答。
- ・【保護者】「お子さんは目標をもって学校生活を送っている。」の問いに、64%が肯定的な回答。

③ 道徳教育・人権教育をはじめとする心の教育を一層充実し、自他の存在を尊重し合う生徒を育成する。

学校アンケートの結果

- ・【生徒】「周りにいじめをしたり、いじめを受けたりしている人はいない」の問いに、70%が肯定的な回答。
- ・【保護者】「いじめが起きにくい、いじめを許さない環境づくりに努めている」の問いに、83%が肯定的な回答。

④ 自らの健康や安全な生活を意識し、自律的に行動できる生徒を育成する。

- ・毎日実施している健康観察の記録をもとに、自らの生活習慣等の見直しを行っている。学校保健委員会で、実態を紹介し、生活習慣について助言し、自分の健康について振り返る機会を設けた。

＊③で「周りにいじめをしたり、いじめを受けたりしている人はいない」の問いに肯定的に回答した生徒の割合が、昨年度(77%)から低下した。人権集会に向けた取組や、日々の早期対応による一人の人権意識の高まりを目指していく。

(2) 教職員の資質向上 [A・⑥・C]

⑥ 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、一人一台端末の効果的な活用や探究的な学びを取り入れた授業実践に努める。

授業アンケートの結果

- ・「授業では、課題解決に向けて一人一人が自分の考えを形成するための場面(時間)がある。」の問いに、85%の生徒が肯定的な回答。
- ・「授業では、課題解決に向けてペアやグループで互いの考えを共有し、考えを広げたり深めたりする場面(時間)がある。」の問いに、86%の生徒が肯定的な回答。
- ・「授業では、課題解決に向けて教科書や資料などを活用し、考えを広げたり深めたりする場面(時間)がある。」の問いに、69%の生徒が肯定的な回答。

⑦ 毎学期、教科を超えて授業参観週間を実施し、全体での研究協議を通して、授業実践力向上を図っている。

- ・に授業参観ウィークを6月、10月、1月で3回実施。

＊今年度から、目指す生徒像:自立した学習者の育成、研究テーマ:生徒に学びを委ねる授業づくり～対話的な学びを基盤として～として、これまでの研究成果をふまえて、R8・9年度井原市教育委員会指定研究に取り組んでいる。

「学びTIME」を授業の中に設定し、「学びを委ねる」ことを意識し、授業実践に取り組んでいる。

＊[～R6:対話的な学びを基盤として]グループ活動の前に十分な時間を確保し、自分の考えや意見をもつことができるようにさせること、そして授業の振り返りの場面では、その時間における学びを自己評価させることを目指した。

＊授業参観ウィークの際は授業参観後にスプレッドシートへ感想や気づきを入力することにより、限られた時間内で効果的な協議を行うことができています。

(3) 安全で安心な学校づくり [A・B・C]

⑧ 非行防止、薬物乱用防止、交通事故防止等の安全指導や、火災・地震・土砂災害・不審者等に対する緊急避難の訓練を引き続き充実させる。

- ・4月:避難訓練(火災)
- ・6月:薬物乱用防止教室
- ・7月:救命救急法研修
- ・9月:避難訓練(地震:予告なし)
- ・12月:避難訓練(不信者対応)
- ・7,1月:交通安全教室(早川優衣)

＊避難訓練を実施後、実際に起きた地震の際、迅速な対応ができた。

学校保健委員会で、生徒と委員さんと「カードゲーム」を通して、ヘルスリテラシーについて学ぶことができた。

命と性の出前講座(未来のパパ&ママを育てる出前講座)・薬物乱用防止教室・生活習慣病予防講座を通して、自分事として考え、行動しようとする心情が育ってきている。

(4) 地域とともにある学校づくり [A・⑥・C]

⑨ 芳井地区学校運営協議会の取り組みを活性化し、これまで以上に芳井小学校や地域との連携・協働を進めることで教育の質を向上させるとともに、教職員の働き方改革を進める。

学校運営協議会アンケート

- ・「協議会の設置により、以前よりも小・中学校の連携が進んだ。」の問いに、94%の委員が肯定的な回答。
- ・「協議会の設置により、地域と学校が連携した取り組みが行えるようになった。」の問いに、94%の委員が肯定的な回答。
- ・「協議会の設置により、教職員の負担が軽減した。」の問いに、54%の委員が肯定的な回答。なお、教職員対象の学校アンケートでの「学校運営協議会の設置により、業務負担が軽減した。」の問いに対しては、肯定的な回答は30%

⑩ 学校便りや学年通信、HP等により積極的に情報を発信し、信頼される学校づくりに取り組む。

学校アンケートの結果

- ・【生徒】「学校の様子を便りなどで積極的に家庭に知らせている」の問いに、92%が肯定的な回答。
- ・【保護者】「家庭への連絡や便りなどで情報提供に努めている」の問いに、87%が肯定的な回答。

＊従来は紙で配布していた「学級だより」「学年だより」「学校だより」「週末課題一覧表」といった配布物を積極的にデジタル配信することで、より確実に保護者へ情報が届くようになっている。

3 学校関係者評価(評価者名)

○評価者：熊原由枝・池田寛子・三原比東・三宅彦和・本井誠治・矢本大也

- (1) 教育活動の充実に関して [A・B・C]
- (2) 教職員の資質向上 [A・B・C]
- (3) 安全で安心な学校づくり [A・B・C]
- (4) 地域とともにある学校づくり [A・B・C]

○学校アンケート等の結果から

- ・家庭学習時間が少ないのが気になる。
- ・学校生活に満足しているのはとてもよいが、その中でいじめが何かしら気になる点があるのは少しひっかかる。
- ・先生方の負担が変わらないのは問題
- ・学習について、生徒と親の肯定的数値の差を把握していることを踏まえた、改善・実態評価希望する。
- ・道徳教育について、生徒と親の判断の差が気になる。生徒に教えることと同様に、親への期待をする。
- ・教職員の資質について、一次回答の次に、それにたどり着いた要因・根拠を述べる必要がある。
- ・概ね生徒側から学校に対する評価は高いので、よくしていただいていると思う。一部の学年で、その年により学力が平均を下回っていることが気になる。さらに授業を工夫していただき、わかりやすい授業を心がけてください。同じく、人権・いじめに対するケアをお願いします。
- ・学習意識調査 95%で、生徒一人一人が学びの中で取り組むことが必要
- ・教職員のレベルアップに「学び TIME」などを実践し、個人のレベルアップを図ること。
- ・いじめに対する、アンケート結果は過去の数値より低く感じる。

○学校運営協議会アンケート(委員)の結果から

- ・CSがあることで、幼小中の情報連携が進んでいる。
- ・先生方の負担が変わらないのは問題
- ・楽しい学校であるのは喜ばしいことだが、世の中は甘くないので、そういう中で生き抜く力を育てる力が欲しい。
- ・協議会での、課題の設定・試験の場をフリーで行ってはどうか。
- ・学校運営協議会が先生方の業務負担軽減につながっていないのは残念であるが、現状ではまあそうだと思う。それを目的に成果があがっている学校や内容があれば示していただきたい。
- ・小中学校の連携が進んだことはよいことだと思う。
- ・協議会を設置したことに対して、教職員の負担が軽減したと感じる割合が小さいのは、個々の受け止め方の差ではないか。

○その他ご意見等

- ・人生の目的、目標を決めて動いてみるようなこと、なぜ学ぶのかを学ぶ
- ・自分のために学ぶという姿勢ができればよい
- ・学校運営協議会の目的がいまひとつわからない。先生方の負担になっているのではないのでしょうか。

4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

《願い》

◎生徒にとっては、『学びたい楽しい学校』、保護者や地域にとっては、『学ばせたい、安心・安全な学校』
教職員にとっては、教職員にとっては、『楽しく働きたい学校』であってほしいと考えている。

《重点取組》

○教育活動の充実

- ・学力向上に向けてのさらなる授業改善
 - *教員の授業力向上(対話的な学びを基盤とした「生徒に学びを委ねる授業づくり」)
 - *自立した学習者(自分の課題を見つけ、自分に合った学習方法を選択し、自己調整しながら主体的に課題解決ができる生徒)の育成を図る。
- ・生徒の将来を見据え、将来必要な力をつけるための教育実践
 - *夢や希望をもち、その実現に向けて粘り強く取り組む生徒を育成する。
 - *道德教育、人権教育をはじめとする心の教育を一層充実し、自他の存在を尊重し合う生徒を育成する。
 - *自らの将来にわたる健康や安全な生活を意識し、自律的に行動できる生徒を育成する。

○地域とともにある学校づくり

- ・芳井地区学校運営協議会の取り組みのさらなる活性化、学校運営協議会のあり方の再確認
- ・教職員の働き方改革の推進
- ・各種通信、HP等により積極的に学校の取り組みの情報発信